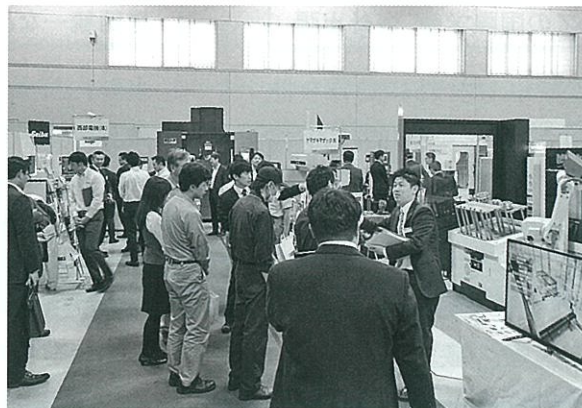


昭栄産業がテクニカルフェア開催

機械商社の昭栄産業（新潟市中央区、平澤利明社長）は5月17日と18日の2日間、新潟県三条市の多目的ホール「メッセピア」で「第38回STF昭栄テクニカルフェア」を開いた（＝写真）。新潟県長岡市の同社長岡支店の新社屋完成を記念して開催した今回のフェアには、県内の工作機械ユーザーなど1300人以上が来場した。平澤社長は開会式で「今後の見通しについて、常に最悪の状態は想定しながらも、新しい取り組みを続けていかなければならない」と力強く述べた。

同フェアは「After JIMTOF～新しい時代の道標～」をコンセプトに、工作機械や工具、周辺機器、ロボットのメーカーなど67社が出展した。各社は県内初披露の新製品や主力製品を積極的にアピールした。初出展の栄工舎（東



京都大田区、安部川洋司社長）は、精密加工に対応した高精度リーマーの「CSR-MC」を展示した。この他、期間中には併催イベントとして特別講演会やロボット活用事例のセミナーなどを開き、来場者の関心を集めた。